



## 第6回 多摩区区民会議

日 時：平成23年11月30日(水)  
18時～20時  
場 所：多摩区役所11階会議室

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 議 事

フォーラムでの意見と報告書の方向性について

- (1) 観光の取組
- (2) 環境の取組 報告者 戸高部会長
- (3) 交通安全の取組 報告者 原田部会長
- (4) コミュニティ交流促進の取組 報告者 大津部会長

#### 3 その他

今後のスケジュールの確認について

報告者 事務局

#### 4 閉 会

#### 配布資料

(環境・観光部会)

- 資料1-1 観光の取組について
- 資料1-2 報告書骨子案(観光)
- 資料2-1 フォーラムでの意見(環境)
- 資料2-2 報告書骨子案(環境)

(交通安全部会)

- 資料3-1 フォーラムでの意見集約の結果
- 資料3-2 交通安全部会の審議について
- 資料3-3 報告書の骨子案について
- 資料3-4 チラシの配布を実施したイベント等について
- 資料3-5 補足資料(自転車安全利用5則など)

(コミュニティ交流促進部会)

- 資料4-1 フォーラムのワークショップで出た意見
- 資料4-2 コミュニティ交流促進部会の審議について
- 資料4-3 報告書骨子案
- 資料5-1 今後のスケジュールについて
- 資料5-2 今後のスケジュールについて(詳細版)

# 観光の取組について

## 1. 観光に対する意見の集約と審議

区民会議委員からの意見集約や、多摩区観光推進協議会にて実施したまちづくりワークショップでの意見を参考にして、審議を行った。

### 区民会議委員からの意見

- 【二ヶ領400年記念イベント】。二ヶ領用水の保全をPR
- 【多摩区の歌】多摩区の良いところをPR
- 【藤子・F・不二雄ミュージアム開館に伴う商店街などの活性化】訪れる人への、諸サービス
- 【写真による心のふるさとづくり】心に残る風景などの写真をまとめる
- 【区制40周年記念】イベント、アンケートの実施

### ワークショップの意見

- 【世代間の交流】。
- 【大学・地域の連携】
- 【シンボルづくり】
- 【おもてなしの体制づくり】
- 【グッズ作成等によるPR】
- 【交流の場づくり】
- 【イベント開催】
- 【地域をつなぐしくみづくり】
- 【各媒体を活用したPR】
- 【ご当地商品開発】



### 人材の育成と発掘

様々な取組を推進していくためには、地域で取組を行うことができる担い手の発掘や、人材育成が必要となる。

### 情報発信

観光の情報発信がどのように行われているか調査する

### 観光に対する考え方の整理

観光の専門家を招き、観光に対する情報を収集する

### 4. 他都市視察（文京区）

### 2. 現地調査（登戸駅→向ヶ丘遊園駅）

### 3. 観光講座の実施

### 効果的な情報発信

生田緑地など魅力ある地域資源を、区民や区外からの来訪者へわかりやすく発信する仕組みが必要である。

### 【登戸行政サービスコーナー】

観光情報コーナーとしてパンフレットラック、地図、パソコンなどが設置されている。生田緑地への案内なども行っている。



## 3. 観光講座

平成23年8月11日に、観光の基本動向や旅行スタイルの変化などについて、ツーリズム・マーケティング研究所の中根氏を招き、観光講座「ニューツーリズムと地域活性化」を実施した。

ニューツーリズムとは最近の旅行スタイルであり、今までのリゾート地への旅行などと異なり、地域の人々が、地域の魅力を発見して磨きあげて、地域の宝石（地域資源）とする。そうすることで、住んでいる人が、地域の魅力を確認することができ、地域資源に誇りを持ち、地域全体で受け入れることができる。そのためにも、異なる分野の団体が協力して取り組む必要がある。

### 地域の体制

魅力ある地域資源を活用し、地域ぐるみで観光の取組を推進していくためには、地域における各主体が連携・協力する必要がある。



## 4. 他都市視察（文京区）

### 文京区観光ビジョンの説明

平成23年11月14日に、他都市の観光の取組がどのようなものか調査するために、東京都文京区へ視察を行った。

視察では、観光担当課から「文京区観光ビジョン」の説明、ボランティアガイドによる文京区内のまち歩き、文京区役所1階にある「観光インフォメーションセンター」の視察を実施した。

特に文京区観光ビジョンでは、区民、ガイドの実施団体、商店街、商工会議所、産業分野など幅広い分野が参加して策定している。



【観光ビジョンの説明】

### 多様な団体の参加と協働

地域ぐるみで観光の取組を推進していくためには、町内会、NPO、市民活動団体、商店街、大学などが、観光の取組に参加する仕組みをつくり、各団体が連携・協働して進めていく必要がある。

### ボランティアガイドの視察

文京区のボランティアガイドの人たちは、ボランティアガイドの講座の受講後に、定期的に勉強会を行い、資料収集や説明する原稿作成なども自分たちで行っている。そのためか、部会員へも一生懸命に説明を行ってくれた。

【礪川（こいしかわ）の寺社を訪ねるコース 3. 2 km】

### 観光に携わる人材が活躍できる仕組み

観光ガイドなど観光に携わる人材が、意欲的に活躍できる仕掛けと場が必要となる。



### インフォメーションセンターの視察

文京区観光インフォメーションセンターでは、名所などの情報やボランティアガイドの情報などを効果的に発信している。

【主なサービス】・まちあるきコース等の相談 ・区内の名所、飲食店等、観光情報の提供 ・区内の催事についての案内など



### 観光の取組の効果的な情報発信

観光ガイドによるツアーといった、観光の取組を効果的に発信し、区の内外にPRしていく必要がある。

# 報告書骨子案(観光)

## 方向性

### 現状と目的

○従来から、区内の地域資源を活用して観光推進に取り組んできた。これまでの取組を継承しつつ、これからの世代への魅力ある地域資源を引き継ぎ、郷土愛や歴史の継承を行っていくことが必要である。  
観光関係の新しい動き  
・青少年科学館のグランドオープン (H24.4) ・生田緑地ビジターセンター開始(H24.4)

### 検討の方向性

○地域が主体となって、観光の取組を実施していくために必要なことは何か。  
○区内の魅力ある地域資源を、効果的に案内するためにはどうしたらよいか。  
○魅力ある地域資源を、区の内外に発信するためにはどうしたらよいか。

### 検討の経過

「観光に対する考え方」、「人材の育成」、「情報発信」といったキーワードについて整理し、調査・審議を行った。  
<調査方法>  
観光に対する考え方⇒観光講座、他都市視察  
人材の育成⇒他都市視察  
情報発信⇒現地調査、他都市視察

### 検討の内容(詳細は、資料1-1)

#### (1) 観光に対する意見の集約と審議

##### 人材の育成と発掘

様々な取組を推進していくためには、地域で取組を行うことができる担い手の発掘や、育成が必要となる。

#### (2) 現地調査(登戸駅一向ヶ丘遊園駅)

##### 効果的な情報発信

生田緑地など魅力ある地域資源を、区民や区外からの来訪者へわかりやすく発信する仕組みが必要である。

#### (3) 観光講座

##### 地域の体制

魅力ある地域資源を活用し、地域ぐるみで観光の取組を推進していくためには、地域における各主体が連携・協力する必要がある。

#### (4) 他都市視察(文京区)

##### 多様な団体の参加と協働

地域ぐるみで観光の取組を推進していくためには、町内会、NPO、市民活動団体、商店街、大学などが、観光の取組に参加する仕組みをつくり、各団体が連携・協働して進めていく必要がある。

##### 観光に携わる人材が活躍できる仕組み

観光ガイドなど観光に携わる人材が、意欲的に活躍できる仕掛けと場が必要となる。

##### 観光の取組の効果的な情報発信

観光ガイドによるツアーといった、観光の取組を効果的に発信し、区の内外にPRしていく必要がある。

## 報告案

### 報告案1 観光に携わる人材について

#### ○人材をつなぐ仕組みづくり

生田緑地や多摩川など、各地域資源には、専門的な知識を持った人材が存在するが、全ての地域資源を案内できる人材は少ない。そのため、区内の各地域資源や専門的な知識を持つ人材をつなぎ、区の魅力ある地域資源を一元的に案内できる仕組みづくりが必要である。

#### ○人材の育成

区の魅力ある地域資源を一元的に案内できる仕組みには、各地域資源の専門家をつなぐような、コーディネート能力を持つ観光ガイドの育成が必要となる。

(取組例) 現在実施している「多摩区観光ボランティアガイド育成セミナー」の継続的な実施や、育成セミナーの受講者を対象としたブラッシュアップセミナーを実施するなどが考えられる。

#### ○人材が活躍できる場の提供

観光ガイドが意欲的に活躍するためには、区民や区外からの来訪者を観光ガイドが案内する仕組みや、観光ガイドの実施するツアーへ参加を促すような取組が必要である。

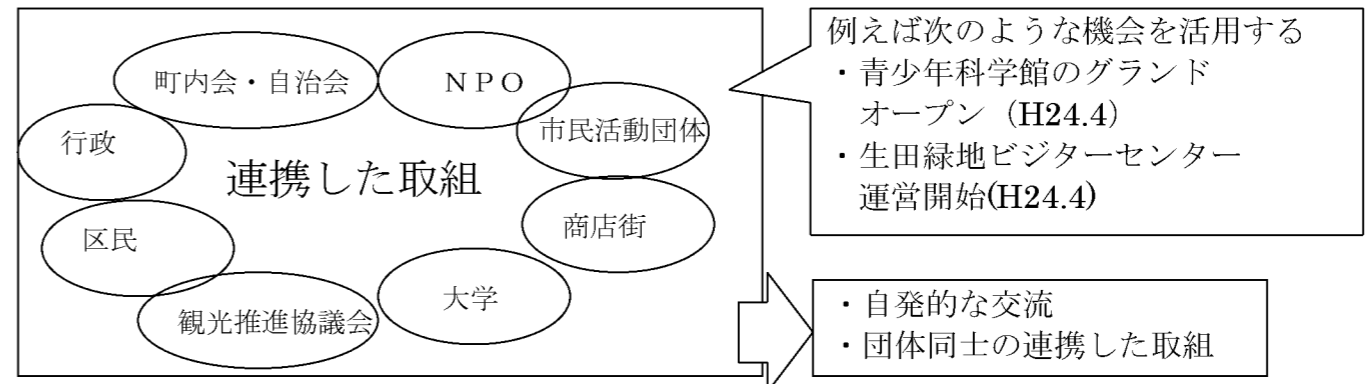
### 報告案2 多様な主体の連携について

#### ○多様な主体が連携した観光の取組

区内の各地域資源を結び付けて、地域全体を観光資源ととらえて観光の取組を進めていくためには、観光推進協議会、商店街、NPO、市民活動団体、町内会・自治会、大学など様々な団体の連携が不可欠である。

#### ○各団体が連携して取り組む仕組みづくり

それぞれの団体が連携してイベントや行事に取り組む機会が少ないため、新しい地域資源の活用などを契機として、各団体が協力して観光やまちづくりに取り組む仕掛けが必要である。各団体が連携する機会をつくることによって、参加した団体間の自発的な交流が生まれ、互いに協力してイベントや行事を実施するきっかけとなる。こういった取組を積み重ねることで、地域が盛り上がるきっかけとなり、区外からの集客にもつながっていく。



### 報告案3 情報発信について

#### ○地域資源と観光の取組の効果的な情報発信

区民や区外からの来訪者へ、多摩川や生田緑地など魅力ある地域資源や観光に関する取組を効果的に発信する必要がある。

#### (取組例)

・既存の施設の活用や商店街、町内会・自治会、大学など様々な主体と連携して、それぞれの持つ資源を活用した広報を実施する。  
・ブログ、ツイッター、フェイスブック等、インターネットを活用した広報を実施する。